

科目 基本 情報	科目名 日本語教育実習Ⅰ	期別	曜日・時限	単位
		後期	木5	2
担当者 -奥山 貴之		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	emailで、授業後教室で受け付けます。	

学 び の 準 備	ねらい 日本語副専攻としての最初の実習授業です。実習Ⅱでは実際に外国人に日本語を教えますが、その前段階として、受講者が外国人学習者の役割を務める模擬授業をします。教師と学習者の両方の立場を経験することで、授業についてより深く理解し次の実践につなげます。	メッセージ 授業の準備、実践、振り返り、を通して相手（学習者）の立場に立って考え、授業を組み立てる力を身につけましょう。
	到達目標 ①日本語学習の初級レベルの基本的な教室活動の流れを学び、実践できるようになる。 ②日本語学習の初級レベルの文型・文法を分析、直接法で導入することができるようになる。 ③学習者が何が分からないか、何ができるいかをよく考えた上で授業を実践できるようになる。 ④日本語学習の初級レベルの基礎練習と会話練習をデザインすることができるようになる。 ⑤これらのために必要な教材を作ることができるようになる。 ⑥他者と自分の実践を客観的に捉え、分析できるようになる。	

回	テーマ	時間外学習の内容
1	ガイダンス	
2	初級の教室活動①直接法の導入と基本練習	課題作成
3	初級の教室活動②会話練習	課題作成
4	教案と授業例	
5	模擬授業準備	模擬授業準備
6	模擬授業①	模擬授業準備
7	模擬授業②	模擬授業準備
8	模擬授業③	模擬授業準備
9	模擬授業④	模擬授業準備
10	フィードバック	模擬授業準備
11	模擬授業⑤	模擬授業準備
12	模擬授業⑥	模擬授業準備
13	模擬授業⑦	模擬授業準備
14	模擬授業⑧	模擬授業準備
15	フィードバック	
16		

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 『みんなの日本語初級Ⅰ』『みんなの日本語初級Ⅱ』スリーエーネットワーク 模擬授業で用いる教科書

学 び の 実 践	学びの手立て グループで模擬授業を担当することになります。お互い協力し合い、学び合う姿勢を持って取り組んでください。 。

評価	授業参加度	10%
	課題	20%
	模擬授業	40%
	模擬授業の評価	15%
	模擬授業のふり返り	15%

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 「日本語教育実習Ⅱ」

科目 基本 情報	科目名 日本語教育実習 I	期別	曜日・時限	単位
		後期	月 2	1
担当者 尚 真貴子		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学 び の 準 備	ねらい 「日本語教材研究演習」「日本語教授法演習 I・II」で学んだ指導理論と演習内容を実際に応用して行く。主に大学内の日本語クラスの授業見学を行い、評価及び報告レポートを提出する。また、初級レベルと中級レベルの模擬授業も行う。その際、授業実践の方法論をふまえながら学習指導案や教材作成もする。さらに、それぞれの模擬授業に対する質疑応答・感想・意見を述べ、お互いに学び合う。	メッセージ 学内で開講されている日本語クラスの見学を行い、留学生への効果的な授業方法を学びましょう。30分の初級と中級の模擬授業は、教壇実習のための練習です。創意工夫をし、しっかり取り組みましょう。
	到達目標 授業見学では、経験を積んだ現職教員が、どのような授業を行っているのか、日本語教育の現場で何が起こっているのか等、大学の講義で得た理論と照らし合わせて確認していく。初級レベルと中級レベルの30分の教案、教材等を作成し、模擬授業を行う。	

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション（講義概要説明等）	
2	授業見学の心構え、教案作成について	授業見学
3	模擬授業について（初級レベル）	授業見学
4	模擬授業について（中上級レベル）	授業見学
5	模擬授業 1 『みんなの日本語 初級 I 第2版』14課、17課	授業見学
6	模擬授業 2 『みんなの日本語 初級 I 第2版』18課、19課	授業見学
7	模擬授業 3 『みんなの日本語 初級 I 第2版』20課、22課	授業見学
8	模擬授業 4 『みんなの日本語 初級 I & II 第2版』24課、26課	授業見学
9	模擬授業 5 『みんなの日本語 初級 II 第2版』27課、28課	授業見学
10	模擬授業 6 『みんなの日本語 初級 II 第2版』33課、37課	授業見学
11	模擬授業 7 中級レベル（会話、聴解）	授業見学
12	模擬授業 8 中級レベル（作文、読解）	授業見学
13	模擬授業 9 中級レベル（文法、読解）	授業見学
14	模擬授業 10 中級レベル（日本事情、日本事情）	授業見学
15	模擬授業 11 中級レベル（沖縄事情、沖縄事情）	授業見学
16	模擬授業 12 中級レベル（沖縄事情、沖縄事情）	授業見学

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 必要に応じて資料等を配布する。 『日本教育辞典』日本語教育学会編(大修館書店)、『日本語授業学入門』縫部 義憲(歴々社) 『日本語教育ハンドブックシリーズ』国際交流基金編、『創造的授業の発想と着眼点』清 ルミ(アルク)

学 び の 実 践	学びの手立て 授業見学では、何を観察するのか、目的を絞り、前もってポイントを決めておきましょう。観察するだけではなく、積極的に留学生のアシスタントとしても手伝いをしましょう。授業見学で学んだことを模擬授業に活かしましょう。
	評価 積極的な教室活動等への参加、出席率、日本語のクラスの授業見学、報告レポート提出、初級レベルと中級レベルの模擬授業、課題等から総合して行う。

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 「日本語教材研究演習」、「日本語教授法演習 I」、「日本語教授法演習 II」、「日本語教育実習 I」を履修した後は、「日本語教育実習 I」へ進む。

科目 基本 情報	科目名 日本語教育実習Ⅱ	期別	曜日・時限	単位
		後期	火3	2
担当者 尚 真貴子		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		4年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学 び の 準 備	ねらい 大学内の外国人科目等履修生のための日本語の初級と中級レベルのクラスで教育実習を行う。また短期日本語研修生のための授業を実際に担当する。ニーズ調査方法の検討及び実施、プレイスメント・テストや習熟度テストの作成と実施、目標の設定とコースデザインの検討等がある。そして指導案作成の後、検討し、リハーサルを行い、実際に授業を担当する。さらに教材作成、評価方法も学ぶ。	メッセージ いよいよ最後の科目となりました。本学に設置されている日本語クラス、あるいは、海外の協定校での3週間の実習は、貴重な体験となります。実習の流れを把握し、日本語教師として自信に繋がる授業を行いましょう。
	到達目標 初級、あるいは、中上級クラスの留学生に実習を行う。実践することにより、日本語教師としての貴重な体験を得る。また、自らの日本語や日本文化（沖縄の文化）についての知識を確かめ、気付くことができる。	

回	テーマ		時間外学習の内容
1	オリエンテーション（講義概要説明等）、実習の順番決め		
2	日本語教育実習について		初級漢字補講クラスの担当
3	教案作成について		初級漢字補講クラスの担当
4	授業見学について	日本語・日本語教育に関する発表1	初級漢字補講クラスの担当
5	短期語学文化研修のための教材作成について	日本語・日本語教育に関する発表2	日本語教育実習・漢字補講クラス
6	実習のための模擬授業1	日本語・日本語教育に関する発表3	日本語教育実習・漢字補講クラス
7	実習のための模擬授業2、実習報告1	日本語・日本語教育に関する発表4	日本語教育実習・漢字補講クラス
8	実習のための模擬授業3、実習報告2	日本語・日本語教育に関する発表5	日本語教育実習・漢字補講クラス
9	実習のための模擬授業4、実習報告3	日本語・日本語教育に関する発表6	日本語教育実習・漢字補講クラス
10	実習のための模擬授業5、実習報告4	日本語・日本語教育に関する発表7	日本語教育実習・漢字補講クラス
11	実習のための模擬授業6、実習報告5	日本語・日本語教育に関する発表8	日本語教育実習・漢字補講クラス
12	実習のための模擬授業7、実習報告6	日本語・日本語教育に関する発表9	日本語教育実習・漢字補講クラス
13	実習のための模擬授業8、実習報告7	日本語・日本語教育に関する発表10	日本語教育実習・漢字補講クラス
14	実習報告8	日本語・日本語教育に関する発表11	日本語教育実習・漢字補講クラス
15	全体のまとめ、学内日本語スピーチコンテストについて		初級漢字補講クラスの担当
16	日本語教育実習の振り返り		初級漢字補講クラスの担当

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など
	配布資料と参考文献を中心に講義を行う。 日本語教育実習Ⅰで示した参考文献と以下を活用する。『わざ 光る授業への道案内』今村 和宏(アルク)、『心と心がふれ合う 日本語授業の創造』縫部 義憲(歴々社)、『日本語教育の実習 理論と実践』岡崎 敏雄他(アルク)

学 び の 実 践	学びの手立て
	今まで学んできた理論を十分に活かし、教壇実習を行うクラスの見学を重ねて行きましょう。指導案・教材の作成は、担当教員のチェックやアドバイスを受けましょう。準備や模擬授業を十分に行えば、実習はうまく行きます。その後、教師や見学者からのコメント・アドバイス等を受け、振り返り(内省)、次回の参考にしましょう

学 び の 継 続	評価
	総合的に評価する。出席率、授業見学、チューター、そして実習の準備（教案作成等）から教材作成、その後教壇実習等、全てが評価の対象となる。

次のステージ・関連科目
日本語教師になるための全ての課程を修了しました。おめでとうございます。次は、地域、県外、あるいは、海外の日本語教師として、活躍しましょう。

科目 基本 情報	科目名 日本語教育実習Ⅱ	期別	曜日・時限	単位
		前期	木4	2
担当者 -大城 朋子		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		4年	講義終了時に受け付ける	

学 び の 準 備	ねらい 留学生等のための日本語クラスや夏期日本語研修プログラムで教壇実習を行なう。実習の内容は、ニーズ調査の実施、プレイスメント・テストや習熟度テストや教材作成、コースデザイン等を行い、教材研究や指導案作成の後、授業を担当し教授経験を積んでいく。	メッセージ ・ 学習者にとっては貴重な1コマの日本語の授業であることを念頭に教師であるという自覚を持って教壇実習に臨むこと。 ・ 教壇に立つ人もそうでない人も授業に参加し、お互いから、そして日本語学習者から学んでほしい。 ・ 準備が全ての土台であることを忘れずに教壇に立ってほしい。 ・ 海外（3大学日本語教育実習の選択肢も考慮に入れてほしい。）
	到達目標 ・ 授業見学を重ね現場を体験し学習者及び学習状況を把握する。 ・ 初級・中級・上級クラスで教壇実習を行い、初級クラスで「漢字・発音クラス」も担当実習する。 ・ 夏期日本語研修のための教材『沖縄事情教材』を作成し、「沖縄事情」のクラスも担当する。 ・ クイズ作成／評価／誤用訂正等の教務作業に関わり、日本語教師としての基本的な実務にも馴染んでいく。 ・ 県内の日本語教育機関を訪問し、大学外の日本語教育現場の状況も把握する。	

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション	
2	『沖縄事情』教材開発と指導について	
3	会話・聴解の指導について	
4	作文・語彙の指導について	
5	文法の指導について	
6	評価法について	
7	ニーズ調査、プレイスメントテスト等の作成	
8	模擬授業→教壇実習①	
9	模擬授業→教壇実習②	
10	模擬授業→教壇実習③	
11	模擬授業→教壇実習④	
12	模擬授業→教壇実習⑤	
13	模擬授業→教壇実習⑥	
14	模擬授業→教壇実習⑦	
15	模擬授業→教壇実習⑧	
16	まとめ	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 適宜、資料を配布する。

学 び の 手 立て	学びの手立て ① 実習の一ヶ月前に担当講師に挨拶し、授業見学の依頼をする。 ② 授業見学を重ね、授業の実際そして流れを把握し学習者を観察する。 ③ 遅くとも実習日二週間前に「指導案」の最終チェックを受ける ④ 教壇実習の後、授業でフィードバックセッションを持ち、今後に生かしていく。

評価	総合的に評価する。実習の準備から授業そして教材作成等すべてが評価の対象となる。

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 海外日本語教育実習も3カ国で、また、海外日本語教員インターンも2カ国ができるような体制が整っているので、日本国内とはまた異なる海外での日本語教育事情及びのその実践も体験して欲しい。

科目基本情報	科目名 日本語教材研究演習	期別	曜日・時限	単位
		前期	金3	2
担当者 -佐々木 香代子		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	daisukes@lab.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 日本語教育副専攻としての最初の科目です。日本語教育の概略を学ぶとともに、初級教科書の分析を通して、外国人学習者が何をどのように学ぶのかについて、具体的なイメージを持てるようにします。 。	メッセージ 期末テストの他に、毎回のクイズ、一部発表、発表があります。
	到達目標 ①国内の日本語教育について、概略を把握することができる。 ②国内で日本語教育がどのように行われているか、その実際と課題を対象者別に理解し、併せて学習者にとっての「日本語能力」とは何かについて考えることができる。 ③日本語（教育）と国語（教育）の違いについて考えることができる。 ④日本語教育で使用される教材の概略を把握することができる。 ⑤教材分析の方法を学び、初級日本語教科書の分析ができるようになる。	

回	テーマ	時間外学習の内容	
1	ガイダンス、「日本語教育」とは?、発表の役割分担	復習（翌週のクイズの準備）	
2	学習者と日本語教育機関	復習（翌週のクイズの準備）	
3	留学生に対する日本語教育（一部発表）	復習（翌週のクイズの準備）	
4	児童・生徒に対する日本語教育（一部発表）	復習（翌週のクイズの準備）	
5	ビジネス日本語（一部発表）	復習（翌週のクイズの準備）	
6	地域で生活する人のための日本語教育（一部発表）	復習（翌週のクイズの準備）	
7	日本語教育と国語教育（一部発表）	復習（翌週のクイズの準備）	
8	日本語教育と日本事情教育（一部発表）	復習（翌週のクイズの準備）	
9	教材分析の方法（一部発表）	教材分析の準備	
10	教材分析（発表）①	教材分析の準備	
11	教材分析（発表）②	教材分析の準備	
12	教材分析（発表）③	教材分析の準備	
13	教材分析（発表）④	教材分析の準備	
14	教材分析（発表）⑤	教材分析の準備	
15	教材分析（発表）⑥	教材分析の準備	
16	期末テスト	総復習（期末テストの準備）	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	教科書は使用しません。レジュメを配布します（参考文献は、レジュメに記載）。 「教材分析」で使用する教科書：「みんなの日本語初級I」および「みんなの日本語初級II」スリーエーネットワーク

学びの手立て	履修の心構え： ①前の週の授業内容の理解度を測るために、「復習クイズ」を、授業の初めに実施します（10分程度）。遅刻しないようにしましょう。 なお、 ②30分以上の遅刻を3回した場合は、1回欠席とみなします。 ③一部発表および発表をしなかった場合は、それぞれゼロ評価とします。

評価	・授業態度（グループワークへの参加度、授業への積極性）5% ・課題の提出 10%（目標①②③④）・発表（教材分析）40%（目標⑤） ・一部発表 15%（目標②③④）・復習クイズ 10%（目標①②③④） ・期末テスト 20%（目標①②③④⑤）

学びの継続	次のステージ・関連科目
	この後、教授法の授業があります（日本語教授法演習IおよびII）。これらは「日を本語を教える」ために必要とされるマイクロティーチングや理論の授業です。日本語教育に取り組んでみようと思う受講者は、これらの授業を履修してください。

科目 基本 情報	科目名 日本語教材研究演習	期別	曜日・時限	単位 2
		前期	火 1	
担当者 尚 真貴子		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学 び の 準 備	ねらい 日本語教育用教材の基礎知識を学び、教材全体を体系的に把握し比較分類する。また個々の教材の分析などを通じて、実際の現場でよりよい教材の活用ができることを目標とする。具体的には、「教材論の体系的把握」「学習者と教材」「コースデザインと教材」「教科書と副教材」「教材の比較分類」「教材の具体的な使用法」等	メッセージ 留学生が使用している教材を積極的に図書館や書店で手に取って見てみましょう。教材は、皆さんの周りにたくさんあります。創意工夫をし、効果的な教材を使用した授業を行えるようにしましょう。
	到達目標 日本語教育に必要な「教材」に関する専門的な知識・能力を習得する。	

回	テーマ	時間外学習の内容
		書籍の調査
1	オリエンテーション（講義概要紹介等）	
2	日本語教育の現状、日本語教育とは何か、教材とは何か。	
3	学習者・日本語教師・教授法・教材の多様化について。発表1「私の小道具活用法」	
4	教材の比較分類表の作成について。発表2「私の小道具活用法」	
5	教科書と副教材の全体分析と課分析について。発表3「私の小道具活用法」	
6	発表4「教材の比較分類表」総合型教材（初級・中級・上級）	
7	発表5「教材の比較分類表」技能型教材（読解・聴解・文章表現・口頭表現）	
8	発表6「教材の比較分類表」言語要素別教材（文字・音声・文法）	
9	発表7「教材の比較分類表」対象別・目的別教材、沖縄事情・日本事情	
10	発表8「教材の比較分類表」視聴覚教材（絵・映像・ゲーム等）	
11	発表9『みんなの日本語I』課分析	
12	発表10『みんなの日本語I』課分析	
13	発表11『みんなの日本語II』課分析	
14	発表12『みんなの日本語II』課分析	
15	発表13『みんなの日本語II』課分析	
16	まとめのテスト	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など 『みんなの日本語 初級I 第2版』（本冊）スリーエーネットワーク 『みんなの日本語 初級II 第2版』（本冊）スリーエーネットワーク プリント使用。必要に応じて資料等を配布。 『日本語教材概説』 河原崎 幹夫他著 北星道書店 『日本語教科書ガイド』 国際交流基金 『日本語教授法』 石田敏子著 大修館書店 『日本語教育の教材』 岡崎 敏雄著 アルク

学 び の 実 践	学びの手立て 留学生が使用している教材・教具をたくさん見て行きましょう。本屋や図書館にも足を運び、どのようなものが使用されているのか、実際に手に取って見てみましょう。全体的に分析した後、課ごとの構成、使用されている文法や語彙、会話等がどのようにになっているのか、調べてみましょう。

学 び の 継 続	評価 総合的に評価するが、特に平常点を重視する。よって出席率、提出物、担当課題の口頭発表、授業への参加状況などが重視される。さらに期末テストの評価が加わる。

次のステージ・関連科目 「日本語教材研究演習」を履修した後は、「日本語教授法演習I」へ進む。

科目 基本 情報	科目名 日本語教授法演習 I	期別	曜日・時限	単位 2
		後期	火 1	
担当者 尚 真貴子		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	syo@okiu.ac.jp 研究室 5410	

学 び の 準 備	ねらい 外国語としての日本語教育がどのように始まり、どのような経緯を辿ったか概観した後、現在国内外で広く用いられている教授法・指導法がどのような言語理論、学習理論、教授理論に基づいているか比較検討する。	メッセージ 外国教授法の変遷を学ぶことにより、いろいろな教授法を取り入れ、教育の効果を図りましょう。多様化が進む日本語教育では様々な教育が求められます。日本語教師はできるだけ多くの教授法を研究し、状況によって使い分ける工夫ができるようになります。
	到達目標 さまざまな種類の外国語教授法を知る。日本語教育の始まりから現在に至るまでの歴史がわかる。日本語の音声の特徴とその指導方法、日本の文字とその指導方法について、どのようにになっているのか調べ、簡単な模擬授業が行えるようになる。	

回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション（講義概要説明等）、発表の順番決め	各国の日本語教育の現状の調査
2	日本語教育の現状、「第1章 日本語教育の特色」	日本、中国、台湾
3	「第2章 母語の学習と外国語」（母語の役割、誤用分析と中間言語、異文化理解教育）	韓国、マカオ
4	発表1 「第3章 外国教授法のいろいろ」翻訳法、直接法	インドネシア、ベトナム
5	発表2 「第3章 外国教授法のいろいろ」ベルリッツ、グアン、パーマー、オーディオリンガル	カンボジア、タイ、インド
6	発表3 「第3章 外国教授法のいろいろ」アーミー・メソッド、T P R	フィリピン、香港、シンガポール
7	発表4 「第3章 外国教授法のいろいろ」サイレント・ウェイ、C L L	オーストラリア、ニュージーランド
8	発表5 「第3章 外国教授法のいろいろ」サジェスト・ペディア、ナチュラル・アプローチ	アメリカ、カナダ
9	発表6 「第3章 外国教授法のいろいろ」コミュニケーション・アプローチ、G D M	フランス、ドイツ
10	発表7 「第3章 外国教授法のいろいろ」V T法、A C T F L · O P I	オランダ、スペイン
11	発表8 「第3章 外国教授法のいろいろ」異文化トレーニング、シャドーイング	メキシコ、ペルー
12	発表9 「第4章 日本語教育の歴史」	アルゼンチン、ボリビア
13	発表10 「第5章 日本語教育の目標」	ブラジル他
14	発表11 「第7章 日本語の音声と特徴とその指導」	
15	発表12 「第3章 外国教授法のいろいろ」	
16	まとめの試験	

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など (1) 石田 敏子『改訂版 日本教授法』 大修館書店 (2) 『みんなの日本語 I 第2版』(本冊)スリーエーネットワーク 参考図書リストをクラスで配布する。

学 び の 手 立て	学びの手立て 様々な外国の教授法を日本語教育にどのように活かせるのか、長所や短所を見つめましょう。また、日本語教育の現在に至るまでの歴史的背景を学びましょう。その他、海外の日本語教育の現状と課題についても調べていきましょう。

評価	総合的に評価する。出席率+授業への参加度+発表+レポート+テスト

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目 「日本語教材研究演習」、「日本語教授法演習 I」を履修した後は、「日本語教授法演習 II」へ進む。

科目 基本 情報	科目名 日本語教授法演習 I 担当者 -大城 朋子	期別	曜日・時限	単位
		後期	木 4	2
学 び の 準 備	ねらい 日本語教授法演習Iでは、外国語としての日本語教育が目指すものに触れた後、日本語教育の歴史的背景を概観する。そして主要な教授法とその基盤となる第二言語習得理論に触れ、教師の役割、指導技術、そして手順等を比較し、長所・短所を実践的に見極めていく。また、日本語の音声、文字、語彙等の特徴を捉え、それらの指導法も学ぶ。	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		2年	講義終了時に受け付ける	

学 び の 準 備	ねらい 日本語教授法演習Iでは、外国語としての日本語教育が目指すものに触れた後、日本語教育の歴史的背景を概観する。そして主要な教授法とその基盤となる第二言語習得理論に触れ、教師の役割、指導技術、そして手順等を比較し、長所・短所を実践的に見極めていく。また、日本語の音声、文字、語彙等の特徴を捉え、それらの指導法も学ぶ。	メッセージ 日本語教育の基盤となる知識や方法論を実践的に学んでいくため、課題調や発表等が多々課されるが、しっかりと取り組んで欲しい。
	到達目標 ・ 外国語の教授法について調べ、その教授法を用いて実際に授業で用いることができるようになる。 ・ 日本語教育の歴史を概観し、現在の日本語教育のあり方や目標等を理解する。 ・ 日本語学習者の発音の問題点に気付き、その指導の方法を学ぶ。 ・ 日本語学習者の課題を通して、文字指導や語彙指導の基盤的となる知識を得る。	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	回	テーマ	時間外学習の内容
1	オリエンテーション		
2	日本語学習者と日本語のレベル		
3	外国語教授法のいろいろ①		
4	外国語教授法のいろいろ②		
5	外国語教授法のいろいろ③		
6	外国語教授法のいろいろ④		
7	日本語教育の歴史①		
8	日本語教育の歴史②		
9	日本語の音声の特徴とその指導①		
10	日本語の音声の特徴とその指導②		
11	日本語の文字とその指導①		
12	日本語の文字とその指導②		
13	日本語の語彙とその指導		発表とデモンストレーション
14	中間言語と誤用分析①		〃
15	中間言語と誤用分析②		〃
16	まとめと最終試験		調査発表

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など
	『ベーシック日本語教育』佐々木泰子著』（ひつじ書房） 『日本語教授法』（改訂新版）石田敏子（大修館書店） 『新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』（アスク） 『新・はじめての日本語教育2 日本語教授法入門』（アスク） 『日本語教育ハンドブック』日本語教育学会編 『日本語教育辞典』日本語教育学会編他

学 び の 実 践	学びの手立て
	しっかりと基本図書を読み込み基礎知識を蓄積していってほしい。そして、実際に日本語学習者と接し、彼等が抱える課題を発見し、より効果的な日本語の伝え方を考えてみて欲しい。

学 び の 継 続	評価
	授業態度（クラス活動への参加度／貢献度）、出席率、課題への取り組み、発表、提出物、最終試験等から総合的に判断する。提出物は、期日以降は受けつけない。実践的な授業であるため、欠席は理由がある場合のみ4回まで、5回以上の欠席の場合には試験は受けられないことになる。

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
	次のステップは、日本語の文法の指導、ドリルの種類、カリキュラムの立て方、聴解の指導、話し方の指導等、具体的な指導技術に入っていくため、この授業でしっかりと基礎を固めて欲しい。

科目 基本 情報	科目名 日本語教授法演習Ⅱ	期別	曜日・時限	単位
		前期	火1	2
担当者 -石原 嘉人		対象年次	授業に関する問い合わせ	
		4年	授業終了後に教室で受け付けます	
学 び の 準 備	ねらい 日本語教授法演習Ⅰに引き続き、種々の日本語教授法と指導法について具体的に論じる。聴解指導、読解指導、会話指導に関する理論と実践が主な内容だが、それに加えてカリキュラム構築の留意点とコース・デザインの方法についても論じる。	メッセージ 日本語教育に携わって30年の経験をもとに実践的な授業を行います。		
	到達目標 傍観者としてではなく、実践者として語学の指導における要点を身につけることができるようになる。具体的な教授項目について知見を得るだけでなく、学習者のエラーの原因を探る、アプローチの方法や心構えについて様々なアイデアを提起して試行錯誤するなど、実践を通して身につけるような知見を得ることができる。			
学 び の 実 践	学びのヒント <u>授業計画</u>	回	テーマ	時間外学習の内容
		1	日本語の語彙とその指導 前半	語彙の分類の実践
		2	日本語の語彙とその指導 後半	語義の素性分析
		3	文法の指導と様々な練習スキル 前半	文法と語彙について考える
		4	文法の指導と様々な練習スキル 後半	文法の説明例
		5	聴解の指導 前半	問題文の作成
		6	聴解の指導 後半	誤答の解説
		7	話し方の指導 前半	会話文の作成
		8	話し方の指導 後半	会話文の修正点
		9	読解の指導 前半	文意の理解度の判別方法
		10	読解の指導 後半	読解問題の作成
		11	書き方の指導 前半	よい作文とは何か
		12	書き方の指導 後半	添削の実践
		13	日本語教育における評価法 前半	日本語運用能力とは何か
		14	日本語教育における評価法 後半	目的別の評価の重点
		15	カリキュラムのたて方・日本語教師の心構え	各自の心構えを言語化する
		16		
評価	テキスト・参考文献・資料など (1) 石田 敏子『日本語教授法』 大修館書店 (2) 『みんなの日本語(初級Ⅰ本冊)』			
	その他、参考図書のリストをクラスで配布する。			
学 び の 継 続	学びの手立て 日常生活において母語として使用している日本語を、学習者の立場から客観的に意識化する姿勢が必要となる。 また、積極的に教室活動等に参加することが求められる。履修上の注意としては、「日本語表現法演習Ⅰ&Ⅱ」「日本語現代語文法Ⅰ&Ⅱ」「日本語教材研究演習」等を履修済みのこと。			
	評価 総合的に評価するが、特に平常点を重視する。したがって、出席率、課題発表、ミニ実習、授業への参加が求められる。それに期末テストの評価を加えて総合評価とする。			
次のステージ・関連科目	次の段階として、「日本語教育実習Ⅰ」と「日本語教育実習Ⅱ」を履修しなければならない。また、「日本語文法論Ⅱ」「言語学概論Ⅰ&Ⅱ」「ジャパンロジーⅠ&Ⅱ」「異文化理解Ⅰ&Ⅱ」「言語文化接触論Ⅰ&Ⅱ」等も選択履修すること。(2)受講終了後は地球市民として専門的に活躍していく人材になっていただきたい。			

科目 基本 情報	科目名 日本語教授法演習Ⅱ 担当者 -川野 さちよ	期 別	曜日・時限	単位 2
		前期	月2	

学 び の 準 備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学 び の 実 践	学びのヒント <u>授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む)</u>

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て

学 び の 継 続	評価

次のステージ・関連科目
